

第74回長崎県公民館大会 大村・東彼大会

—— 報告書 ——

大会テーマ

人と世代をつなぎ、持続可能な地域をつくる
公(幸)民館の可能性



期日 令和6年10月30日(水)・31日(木)

会場 大村市中央公民館・シーハットおおむら さくらホール

第74回長崎県公民館大会大村・東彼大会 報告書

も く じ

■ 挨拶	2
■ 大会写真	3
■ 開催要項	5
■ 1 分科会報告	
第1分科会「青少年教育と公民館」	8
第2分科会「地域づくりと公民館」	12
第3分科会「人権教育と公民館」	17
第4分科会「自治公民館活動」	20
■ 2 全体会	
アトラクション	25
被表彰者一覧	26
講演	27
■ 3 資料	
長崎県公民館大会大村・東彼大会運営組織	29
参加者数	30
大会のあゆみ	31

第74回長崎県公民館大会大村・東彼大会の終了にあたって



長崎県公民館大会大村・東彼大会 大会本部長
大村市教育委員会教育長 遠藤 雅己

先般、令和6年度第74回長崎県公民館大会大村・東彼大会を開催したところ、県内各地から2日間で延べ508名の皆様にご参加いただき、大盛会のうちに終了することができました。

これもひとえに、ご参加いただいた皆様のご協力の賜であり、心から感謝申し上げます。

さて、本大会の開催にあたり、東彼杵町・川棚町・波佐見町・大村市の各教育委員会と自治公民館関係団体の代表者で構成する実行委員会を組織し、長崎県教育委員会と連携しながら、『人と世代をつなぎ、持続可能な地域をつくる公(幸)民館の可能性』というテーマのもと、鋭意準備を進めてまいりました。

大会1日目は、「青少年教育と公民館」「地域づくりと公民館」「人権教育と公民館」「自治公民館活動」の4つの分科会において、各公民館における活動事例の発表をもとに、研究テーマに沿って討議していただきました。

いずれの分科会においても活発に意見が出され、地域づくりの拠点である公民館の存在の重要性を再確認されたことと存じます。

大会2日目の全体会では、公民館活動の充実と発展に尽力され、大きな功績をあげられた皆様を表彰いたしました。

その後に口演家・矢野大和様による抱腹絶倒の大笑いに溢れた「口演」があり、テーマである『地域づくりは人づくりから』を心から実感させるお話に、参加者全員が元気をもらった気がいたします。

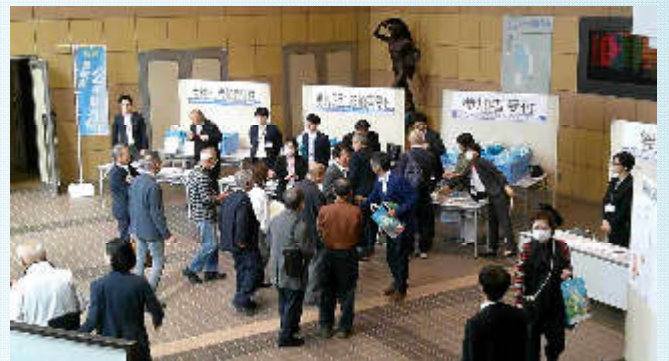
本大会での「学び」と「交流」は、今後の公民館活動の充実につながるものと確信しています。

参加された皆様、講師の口演家・矢野様に厚くお礼申し上げます。

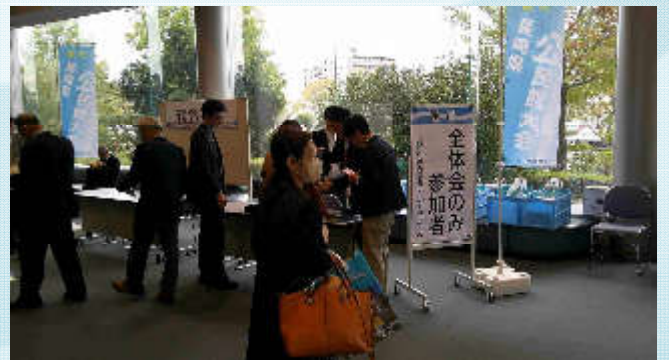
結びに、本大会の開催にあたり、ご協力いただいた長崎県公民館連絡協議会をはじめ、長崎県教育委員会及び大会関係者の皆様にご感謝申し上げますとともに、ご参加いただいた皆様の今後益々のご健勝とご活躍を祈念し、私からのご挨拶いたします。

【会場のようす】

大会1日目 分科会



大会2日目 全体会



【全体会のようす】



アトラクション



国歌斉唱



主催者あいさつ



表彰



受賞者代表あいさつ



講演



大会旗引継ぎ

令和6年度 第74回
長崎県公民館大会
大村・東彼大会

1 趣 旨

少子高齢化の急速な進行、総人口の減少、人々の価値観の多様化、コロナ禍で顕在化した孤独・孤立問題など、社会を取り巻く環境は一層複雑さを増しています。また、デジタル化の進展により、新たな時代への転換期を迎える中で、人と人とのつながりが希薄になり、情報格差や地域格差などが生まれ、将来を見通すことが困難な時代となっています。

このような時代だからこそ、「つどう」「まなぶ」「むすぶ」公民館は、多様なウェルビーイング実現のための地域づくり活動の拠点として、重要な役割を果たすことが今後も期待されています。そこで、県内の公民館関係者や社会教育関係者等が一斉に集い、誰もが「元気に」「安心して」「心豊かに暮らせる」持続可能な地域づくり、その拠点となる公民館の存在について再確認し、公民館の可能性について考え合う機会とするため、本大会を開催します。

2 大会テーマ

「人と世代をつなぎ、持続可能な地域をつくる公（幸）民館の可能性」

3 主 催

長崎県公民館連絡協議会 長崎県教育委員会
大村市教育委員会 東彼杵町教育委員会 川棚町教育委員会 波佐見町教育委員会

4 主 管

第74回長崎県公民館大会大村・東彼大会実行委員会

5 後 援

長崎県 大村市 東彼杵町 川棚町 波佐見町
長崎県市長会 長崎県町村会 長崎県市町村教育委員会連絡協議会
長崎県都市教育長協議会 長崎県町村教育長会
長崎県社会教育委員連絡協議会 長崎県社会教育主事等連絡協議会
長崎県視聴覚教育連盟 (公財)長崎県老人クラブ連合会
長崎県青少年育成県民会議 (一財)長崎県子ども会育成連合会
長崎県PTA連合会 長崎県公立高等学校PTA連合会
(一財)長崎県地域婦人団体連絡協議会 (福)長崎県社会福祉協議会
(順不同)

6 期 日

令和6年10月30日(水)～10月31日(木)

7 会 場

(全 体 会) シーハットおおむらさくらホール
(分 科 会) 第1分科会 大村市中央公民館 第5会議室
第2分科会 大村市中央公民館 第3・4会議室
第3分科会 大村市中央公民館 第1会議室
第4分科会 大村市中央公民館 大会議室

8 参 加 者

公民館等関係者、教育委員会関係者、社会教育・生涯学習関係者、学校教育関係者、市町長部局関係者 等

9 参加者数 508人

10 日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
10/30 (水)		県公連 理事会		分科会 打合せ		受付	分科会 (4会場)	
10/31 (木)		受付	全体会					
		開会行事	講演	閉会行事				

(1) 第1日目【分科会】 大村市中央公民館各分科会会場

受付 14:00～14:30

分科会 14:30～16:00

(2) 第2日目【全体会】 シーハットおおむらさくらホール

受付 9:00～9:30

開会行事 9:30～10:30

アトラクション ソーシャル・ピーコック・バンド

(1) 開会のことば 大会副本部長（東彼杵町教育委員会教育長）

(2) 国歌斉唱

(3) 公民館の歌斉唱

(4) 大会会長あいさつ 長崎県公民館連絡協議会会長

(5) 歓迎のことば 大村市長（開催地市長）

(6) 表彰

(7) 受賞者代表あいさつ

(8) 閉式

講演 10:30～12:00

講師 口演家 矢野^{やの}大和^{たいわ}氏（鷹鳥屋神社宮司）

テーマ 「地域づくりは人づくりから」

閉会行事 12:00～12:30

(1) 開式

(2) 大会本部長あいさつ 大村市教育委員会教育長

(3) 公民館旗引継ぎ 佐々町社会教育委員会委員長

(4) 閉会のことば 大会副会長（長崎県公民館連絡協議会事務局長）

1

分科会報告

第1分科会

会場 大村市中央公民館第5会議室

『青少年教育と公民館』

研究テーマ 地域・学校・家庭が連携・協働した活動

事例発表者 壱岐市 田河ABC

事務局 岡田 敏

助言者 長崎県教育庁生涯学習課

課長補佐 山下 慶子

司会者 壱岐市教育委員会社会教育課

課長 白川 哲司

記録者 東彼杵町教育委員会社会教育係

参事 富永 和彦

会場責任者 東彼杵町教育委員会社会教育係

係長 松山 幸一郎



第1分科会「青少年教育と公民館」

I 発表要旨

発表1	「相互に支え合う学校と地域 ～田河の子ども達の健全育成のために～」 吉崎市 田河ABC 事務局 岡田 敏
-----	---

(1)はじめに(地域の概要)

○吉崎市東部に位置する田河地区は、長崎県の平野で2番目の広さを誇る「深江田原(ふかえたばる)」がある農村地域で、米・畜産・アスパラガスやいちご、焼酎醸造が盛んであり、約540世帯、約1,200人の住民が暮らしているが、少子高齢化が進む中で、持続可能な形で、生涯学習・社会教育推進のあり方を模索している。

(2)活動内容

○冬フェス(毎年12月)・・・餅つき、読み聞かせ、イルミネーション、老人会門松づくり。

○地域と学校を繋ぐ活動・・・まちづくり協議会や田河小学校運営協議会などでの組織体を形成し、学校運営に関する課題を共有しながら協議を重ねている。

○田河にじいろプロジェクト ～7つの学びのプロジェクト～

大人から様々な愛情(光)をもらい、子ども達が輝いてほしいとの願いを込めて七色の虹にかけたプロジェクト。令和6年度から本格的に実施している。

①地産地消を学ぶ

②歴史・文化を学ぶ

③「いのちを守る」を学ぶ

④学びたいことを学ぶ

⑤まち・ひとの繋がりを学ぶ

⑥「地域の資源を守り・活かす」を学ぶ

⑦本から学ぶ

(3)評価・成果

○学校運営に関する地域の支援(バックアップ)が形成されてきている。地域交流の機会が増加し、賑わいを生んでおり、活動を通じて住民にやりがいや充実感・楽しみや喜びを感じている。

(4)今後の課題

○活動の持続・・・目的や内容を理解していくこと 活動の情報発信と課題や意見の集約
活動を支える人材の確保や育成

II 感想の共有

○とても分かりやすい説明であった。

○青年団を卒業してからもまた昔に戻って活動を続けたいと思う気持ちに感心した。

III 質疑応答

Q 田河ABCの事務局は誰がしているのか。市職員がされているのか。

A 事務局は、まちづくり協議会で運営している。市職員ではない。

Q 役員の成り手がなかなかいないと思うが、どのようにして選出しているのか。

A 田河地区には自治公民館長(代表)が20名おり、まちづくり協議会のメンバーとして必ず選出してもらっているため、成り手不足という状況にはない。また、任期は1年となっている。

Q 地域のまとまりはどのような状況か。

A 上記のとおり、メンバーは各自治公民館長その他、各社会団体から選出してもらっているためまとまっていると思う。

Q まちづくり協議会の『集落支援員』は吉岐島の出身か、島外出身者か。

A 吉岐島の出身者。

Q 田河ABCのメンバーは青年団OBが多いとの事だが、発足したきっかけは。

A 青年団を引退したメンバーが、昔のような活動をまた行いたいと思ったのがきっかけとなり、有志で発足した。

Q 青年団は現在いくつあるのか。また、田河地区でも活動しているのか。

A 以前は、18地区すべてで活動していたが、現在は1地区だけ。田河地区にはない。

Q 活動手法を6つ挙げられているが、7つ目として今の子どもたちに『受け渡す』、或いは『繋ぐ』などの思いを込めて取り組んでいただきたいのだが。

A 子どもたちには活動している『大人の背中』を見て成長して欲しい。10年後、20年後に自分たちがいなくても『活動したい』という思いを持って欲しいと思っている。

IV 意見交換

1 主な内容について

○田河ABCの活動を、島外の方々にもっと広げる機会や知る機会を増やせないか……

これまではあまり外部に向けての発信は行っていないが、私たちにできることがあれば今後発信していきたい。

2 公(幸)民館の可能性について

○近所に住んでいる方で、町内会に加入されていない方がいる。未加入なため、ゴミステーションが使えない状況だが、お金を払えば利用できることにしており、それを口実に勧誘している状況。それも一つのコミュニケーションとして成り立っている。

○人口が減りそれに伴って公民館活動を維持するのが年々難しくなっているため、積極的に周囲を引っ張れる人が必要と思う。このようなことを突破口にして、活動を盛り上げていくことが今後重要になる。

V まとめ(指導助言)

助言者	長崎県教育庁 生涯学習課 地域教育班 課長補佐 山下 慶子
-----	-------------------------------

- 子どもたちの健全育成が目的ではあるが、地域で交流を図り、盛り上げていくという活動により、地域のコミュニケーションも広がっていく素晴らしい活動である。
- コロナ禍で約3～4年、したい活動も制限されていた中で、地域の現在と未来を考え、ブラッシュアップし、30年以上の歴史があった「餅つき」を地域全体を巻き込んだ『まつり』として開催し、内容も地域課題それぞれに対応したものとなっていることは特筆すべきことである。
- 地域全体の連携強化を図るため、実行委員会から現在のまちづくり協議会に移管し、「何のためのまつりか」という目的を共有し、地域の振興発展を願って活動されていることは本当に素晴らしいことである。
- 歴史を大切にしながらも、多様で持続可能なものへと進化していくこと。住民それぞれが目的や内容を理解して共有していくことが大切。その結果、子どもたちは多くの学びを得ることができるとともに、大人からの温かい眼差しを感じる機会となる。大人にとっては多様なつながりを生み、地域の賑わいへと発展する。地域・学校・家庭間の連携が深まり相互で支え合うことで、みんなに笑顔が生まれ、そのことで地域全体の幸せ＝公(幸)民館活動に繋がっていくと考える。



第2分科会

会場 大村市中央公民館第3・4会議室

『地域づくりと公民館』

研究テーマ 多世代が集う地域活動

事例発表者	上対馬LOCKERS	代 表	庄司 絵里加
助 言 者	長崎県社会教育支援「草社の会」	副 会 長	納 富 雅 人
司 会 者	対馬市公民館運営審議会	委 員 長	永 留 秋 廣
記 録 者	波佐見町教育委員会社会教育班	主 査	中 村 元 和
会場責任者	波佐見町教育委員会社会教育班	係 長	馬 場 真 琴



第2分科会「地域づくりと公民館」

I 発表要旨

発表1	「公民館から広がるダンスの力」 上対馬LOCKERS 代表 庄司 絵里加
-----	---

(1)はじめに(地域の概要)

- 対馬市は、長崎県の中で最も広い面積を有しており、その9割が森林で占められている。中央部にはリアス式海岸に囲まれた浅茅湾が広がり、沿岸部を中心とした地域は国立公園に指定されている。
- 新型コロナウイルスによる規制も緩和され、観光客は増え賑わいつつあるが、歯止めの効かない人口減少や立地条件は市民の文化活動振興の課題の一つ。

(2)活動内容

- 令和3年10月より、上対馬総合センターにて子どもを対象にした公民館講座「ロックダンス講座」を開講。公民館講座は11月に終了したが、継続希望の意見が多かったため、自主講座として指導を続け、令和5年からは有料で教室を運営している。令和5年秋の公民館講座からは、大人を対象としたストリートダンスの講座を開講し、現在も月謝制の自主講座活動を実施している。
- 地域のお祭りなどへの参加や発表会の実施など、子どもから大人のクラスまで、練習の成果を発揮する場があり、お互いのダンスを認め合いながら、ダンスを通じた一つのコミュニティが形成されている。

(3)評価・成果

- 「上対馬LOCKERS」の活動を通して、ダンスを通じたコミュニティ形成、地域活性化、生涯学習の推進という成果を上げることができている

(4)今後の課題

- 多くの成果を上げる一方で、今回の活動を通して、上対馬町文化協会の活動の推進、「踊りたい人」だけに限定しないコミュニティダンスの進め方についての課題が見えてきており、上対馬町文化協会の加盟団体で協力して活動を広報したり、ダンスの恩恵を年齢や障害の有無などに関わらず多くの人に届けられるようなイベントを実施していきたい。

II 感想の共有

- ダンスからまちの活性化、地域の橋渡しができれば、まち全体が元気になるということで、ぜひ頑張ってもらいたい。
- 通常は役を持った方とか男性の方がやることが多いと思うが、この講座は開催者の意気・意欲が通じて、多くの応援・参加があり、そういう積極的なところに感心した。「つどう」「まなぶ」「むすぶ」この過程ができているところに感動した。

Ⅲ 質疑応答

Q ダンス教室にはどのくらいのエリアから来ているのか。

A 上対馬、上県のエリアから。自衛隊や自衛隊のお子さんも多く来ている。

Q 個人としてされているのか、組織として何か立ち上げられているのか。公民館の自主講座として指導を続けているとのことだが、その過程でどのように公民館に認められたのか。このダンスクラブが地域のために何かボランティア的なものが行われているか。

A 今は私が主でやっていて、保護者の方にサポートをいただいている。この活動は、私が骨折などをしてしまうと、長く休憩してしまうことになるので、そこが課題だと思っているため、付加価値を付ける意味でも韓国からダンサーを月1回からでも呼べないかという風に思っている。担い手という意味では、高校生が卒業した後にバイト感覚でももらえたらと思うが、福岡に出る予定があるので現実的に難しい。自主講座として続けてきたことに関しては、子どもたちが公民館講座を受講する姿を見て、保護者の方にもお金をかけていいと思っていたからだと思う。ボランティアに関しては、コミュニティダンスを広めていきたいということで話をさせていただいたが、老人ホームや障害のある方のいる施設などでダンスの活動ができないかを検討している。

Q パワーの源や今後も活動を継続していくために必要だと思えることを教えていただきたい(お金とか、周知活動についてなど)。

A パワーの源はすごく楽しいことが一番なほか、活動中での受講生のリアクションや一人一人の成長を感じるところ。またダンスの文化はニーズはあるが、上対馬町ではダンスを習えるところがない。習い事の種類も都市部に比べると少ないため、お母さん達の「何か遊ばせたいな」「成長させたいな」という思いや、子どもたちも「やりたい」という思いなどから、そういう意味で余白がある。継続していく上での課題は、私が踊れなくなると止まってしまうこと。定住するにあたって一番大きいものであったが、私に対馬を出て行ったら、こんなに頑張ってくれているのに、「俺、一時期ダンスしてた」ってなってしまうと嫌だなと思ったことが大きい。私がいなければならぬ活動になっているというのが今後継続していく上での大きな課題だと思っている。そこに対して、韓国だけでなく、対馬や福岡、近郊の人達にも呼びかけをしていきたいと思っている。

Ⅳ 意見交換

1 主な内容について

○多世代が集う地域活動について

(時津町)

三世代交流を、グラウンドゴルフ、昨年は室内ペタンク大会を開催した。子ども会、シニア会が交流をするための大会を行っており、子どもを守る活動にも繋がっている。

公民館を見て感じるのは、高齢化が進む中で後のなり手がなかなかいない。発表にもあったように、熱意・意欲これが地元の方々を動かす原動力になるかと思う。

(新上五島町浦桑地区)

ミニディという長寿支援の活動をやっている。老人会の中にはミニディ、脳トレ、グラウンドゴルフ、パタンクなどいろいろな競技をする中で、子どもたちや上五島高校の障害を持つ生徒たちとの交流をしながら活動をしている。また、病院にいけない方を連れて行ったり、墓の掃除、畑作業などの有償ボランティアの活動も立ち上げている。有償ボランティアの活動の中で毎月カレーの日(こども食堂)を設けており、カレーに限らず、季節や時期に合ったものを作っている

(川棚町中組郷)

毎年献灯祭を開催。7地区の連合班の出し物、子ども会、青壮年部、老人会など協力して実施している。毎年「やる」と決めて取り組んでおり、多世代交流にもなっている。

2 公(幸)民館の可能性について

○どのようにすれば地域活動が活発になるか(課題とは何か)

(松浦市)

市立公民館で課題になっているのが、20代から40代の方までの公民館の利用状況が、高齢の方に比べてとても少ない。10代から30代の方に少しでも利用してもらえるように、公民館のフロアで季節に応じ、秋には「みんなでつくる並木道」といって、皆さんに書いてもらった木の絵を募集して展示するとか、春には「桜に乗せたメッセージ」といって、桜の形に切り取った紙に卒業して別れてしまう友達や、遠くに就職して地元を離れるお子さんへのメッセージをいただいている。

(波佐見町)

20代から40代までの世代が元気で、町を引っ張っているという状況がある。11月23日にやきもの公園をキャンドルで埋め尽くすイベントを行う予定で、キャンドルは子どもたちに作らせる準備をしている。まずは、動ける世代に動いてもらい、周りを巻き込んでもらうような取り組みを今後進めて行かなければいけないと考えている。

V まとめ(指導助言)

助言者	長崎県社会教育支援「草社の会」 副会長 納富 雅人
-----	---------------------------

○事例発表について

小学生から高校生を対象に公民館の講座から自主講座に発展し、その後、さらに有料で教室を運営できるようになったという、まさに学習活動の広がりという公民館講座の理想的な展開を見ることができた事例ではないかと思う。公民館講座を設定する時は、どう地域の学習ニーズを読み取るか、指導できる講師をどう確保するか、というところが大事なポイントであると思っている。今回のお話の中で、ダンス教室を企画された公民館職員の企画力、学習ニーズを読み取る力にも感じた。指導を受けている子どもたちも、講座を通して楽しく、情熱を持って指導をしていただいたので、ダンス教室を続けて

たいという気持ちになったと思う。今後も、上対馬LOCKERSの活動が継続してもらえればと考えるが、長く活動をされているグループに「どうやって継続できているか」をお聞きすると、①少しずつ世代交代ができていいる ②新しく入ってきた方を快く受け入れる雰囲気ができている ③まとめ役(役員)の交代を毎年しているが役員選出はスムーズである。ことと言われている。もう一つ、今後10年20年を考えると、指導者の育成というのも考えながら活動を進めて行くことが必要であるとする。上対馬LOCKERSも長く続くように会員の確保、スムーズな役員交代、次の世代の指導者を見つけながらサステナブルな(継続的な)体制づくりができればと思う。コミュニティダンスとは、年齢・性別・障害の有無・宗教・人種・ジャンル・経験に関わらず、誰もがダンスを作り、踊ることができるという考えのもと、アーティストが関わり、ダンスの持つ力を社会の中で活かしていく活動である。上対馬町内でも地域の踊る催し物もあると思うが、そこを大事にして発展させるお手伝いをしながら、さらに子どもから高齢者まで抵抗感なくできる新しいコミュニティダンスを作って、幼稚園、学校、公民館、イベントなどを通じて広めていくことで、話題となって島おこしの一つになると思う。

○多世代が集う地域活動について公民館に来る機会が一番少ないのが10代から20代だと思う。それをどう対応するか、若い世代を呼び込むかというのが課題となっている。そういう中で、子どもたちに公民館について知ってもらう機会を設けないといけないということで、諫早市では「夏休みの子ども講座」を実施しており、「はじめての囲碁教室」と「料理教室」では、指導を公民館の自主学习グループが行っている。そうすることにより、多世代が集うだけでなく、世代間の交流もできるのではないかと考える。多世代が集うことのできる場所が「公民館」である。ぜひ、それぞれの公民館で、多世代が集うような活動を企画してもらえれば、地域活動が盛んになっていくのではないかと考える。



第3分科会

会場 大村市中央公民館第1会議室

『人権教育と公民館』

研究テーマ 個々を尊重する地域づくり

事例発表者	時津町立時津公民館	館長	永尾 和敏
助言者	長崎県県民生活環境部 人権・同和对策課	課長補佐	稲本 信也
司会者	長与町教育委員会生涯学習課	主査	時津 貴文
記録者	川棚町教育委員会社会教育係	主任主事	金子 未来
会場責任者	川棚町教育委員会社会教育係	係長	安永 友紀



第3分科会「人権教育と公民館」

I 発表要旨

発表1	研究テーマ『個人を尊重する地域づくりの推進』 時津町立時津公民館 館長 永尾 和敏
-----	--

(1)はじめに(地域の概要)

長崎市の北部と西彼杵半島の接点に位置し、東側は長与町、北側は大村湾の南端部に接している。工場や大型商業施設等も多く、長崎県内でも若者人口が多い町であるが、転入・転出・転居も多く人口移動の多い町でもある。

(2)活動内容

○各種講座・教室を通じた人権教育

- ①青少年対象の講座・教室 ②高齢者教室 ③公民館講座(前期・後期)
④長崎外国語大学との連携講座 ⑤ボランティア育成事業

○町内社会教育施設との連携

○各機関との連携

(3)評価・成果

○ライフステージごとに講座の内容を絞ることで、様々な世代に来館してもらい、幅広い人権教育を行うことができる。

○幅広い年齢層を対象とした講座では、若者と高齢者がお互いの意見を尊重する場面が多く見られた。世代を越えて理解を深め、お互いを尊重する人権意識の向上に繋がる。

○各種機関が実施する人権教育に関わる講演会等について、事前に施設利用の許可を行うほか運営の補助や事業の広報啓発に協力することで、準備から開催までスムーズな事業運営が図られている。

(4)今後の課題

○個人を尊重し、お互いを思いやる心豊かな地域づくりの実現のためには、これまで以上に地域や関係機関との連携を深め、地域とともに地域課題の解決に取り組みながら、公民館を拠点とした生涯学習および絆づくりを通じた人権教育の推進に取り組む。

○住民の人権意識を高める年間プログラムを作成し、計画的に進める必要がある。

II 感想の共有

○大学との連携や幅広い世代間の交流など、理想的な活動をされている。

○今行っている取り組みを継続しながら他自治体も参考にしつつ新たなものを加え、よりよい地域づくりを行っていく必要がある。

○自治公民館と公立公民館が行っていることの規模が違う。高齢者や子どもは来るが、成人層がなかなか来ない。どのように働きかけをしたらよいか。

○自治公民館と公立公民館の連携が必要不可欠。

Ⅲ まとめ(指導助言)

助言者	長崎県県民生活環境部人権・同和対策課 課長補佐 稲本 信也
-----	-------------------------------

- 公民館が、住民の笑顔を思い浮かべながら、「自己実現」をキーワードとして、具体的な活動を展開されているところが素晴らしい。このように、公民館運営の目標を明確に打ち出し、意図的・計画的に取り組んでいくことが、人づくり・地域づくりの出発点なのだと学ばせていただいた。
- 時津川を題材とした自然体験教室は、子どもたちが、川に浸り、植物に身を寄せ、仲間と昆虫を採集して自然を満喫するというものだった。この体験は、ふるさと時津に愛着を芽生えさせ、時津で生活する自分自身を肯定する感情を育むことにもつながっていると感じた。「自然体験をしよう」という活動目標と共に、活動を通して、ふるさとを愛する人材を育成するといった目標を位置付けて、公民館活動を行うことの大切さを教えていただいた。
- ペアやグループによる受講者同士の対話を取り入れた講座の運営は、受講者同士のつながりを深めるだけでなく、相手の意見や考えを尊重しながら、多様な見方や感じ方が得られる豊かな学びの場につながっていた。
- 自主企画講座の開催は、まさに、住民の「出番づくり」につながっていると感じた。住民が、自らの学びの成果をもとに講座を企画・実践することは、自己肯定感を高めたり、自己有用感を得たりする機会となる。そうした住民の出番づくりが、学びの好循環につながっていると感じた。
- 公立公民館と自治公民館連絡協議会等が連携し、互いの活動、成果、課題等について情報を共有することは、豊かな学びを生み出すネットワークづくりにつながると考える。今後も、情報の共有化、見える化を図ってほしい。



第4分科会

会場 大村市中央公民館大会議室

『自治公民館活動』

研究テーマ 持続可能な地域をつくる

これからの公民館活動

事例発表者	佐世保市東高梨町公民館	館長	桑原 正吉
助言者	長崎県教育庁生涯学習課	指導主事 (社会教育主事)	小畠 佐予子
司会者	佐世保市教育委員会社会教育課	主任主事	迎 義孝
記録者	大村市教育委員会社会教育課	主事	吉岡 真実
会場責任者	大村市教育委員会社会教育課	係長	千住 正貴



第4分科会「自治公民館活動」

I 発表要旨

発表1	研究テーマ『持続可能な地域をつくるこれからの公民館活動』 取り組みの実践:東高梨町公民館 館長 桑原 正吉 進行:佐世保市教育委員会社会教育課 迎 義孝
-----	--

(1)はじめに(地域の概要)

長崎県の北西部に位置する港町で、アメリカ海軍の基地があり国際色豊かな雰囲気を感じられる、多文化背景が調和する場所である。また、佐世保バーガーやハウステンボス、九十九島などの観光資源にも恵まれており、自然・歴史・文化・エンターテインメントなど様々な体験が楽しめる観光地でもある。

(2)活動内容

○地域資源を活用した交流の場所づくり

- ①町内の「空き地」を「公園」へと整備 ②「高梨町公民館まつり」の開催
- ③若い世代との交流(地元の県立佐世保西高校放送部を部活動の中での取り上げ)

(3)評価・成果

- 地域のつながりの場をつくり、地元住民が参加することで信頼関係が築け、世帯票などの各世帯への調査も、4年前に実施したときよりもスムーズに行えた。
- 全国では、地域のお祭りなどのイベントが減っている中、東高梨町では新しい祭りが生まれ、地域の人々が交流することで地域の一体感が生まれている。
- 地域課題の解決策として、必要なリソース(人材や物、お金)を違う地域や団体などから調達し、新たな建物などやイベント・体験などを作り住民を増やすやり方が一般的な中、東高梨町公民館では「今ある」リソースを、今の時代に合った持続可能な形で整備し、今あるものを最大限に活用する取り組み方を行っている。

(4)今後の課題

- 今の取り組みを、次の世代に引き継ぐこと。
- 地域との関わりが非常に薄くなっている中・高校生に対し、自分の地域を自分事に感じ行動してもらうにはどうしたらよいか。

II 質疑応答

Q 自治会長と公民館長を兼務しているのか。

A 地区公民館長ではなく町内会長である。

Q 回覧を廃止したとの話だったが、市からの通知等の回覧はどうされているのか。

A 市からの通知等は、LINEで見られるようデジタル化して佐世保市のホームページに誘導しているほか、東高梨町のインスタグラムを活用し情報を発信。チラシは、班長が1か月間手元に保管し必要な方が受け取れるようにしている。また、公民館でも見られるようにして、スマホから情報が得られない方への対処をしている。

Q 公園の維持管理は誰がどのように行っているのか

A 地主と交渉し、町内会で管理。草刈りなどは賛同してくれる人と自分で実施している。

Q 町内会の加入率を上げるための取り組みなどはされているのか

A 町内会の取り組みを非加入世帯にも興味をもってもらえる様な内容にしていく。実際は、未加入世帯への広報紙配布や秋まつりの抽選券を配るなどを行っている。

Q 町内会の活動に対してどのようにして人材を集めているのか

A 現在は総務部長と民生委員2人、デジタル担当1人で行っている。行政や議員との会合の場には班長に来てもらっている。役員のなり手がいないのは、今の町内会活動に対してニーズがないからだと思う。今の時代に合った地域コミュニティを作り必要があると思っている。公民館の役員になってもらわなくてもいいが、地域のコミュニティには参加してもらい、地域が活性化するような場づくりを行っている。

Q 町内会のデジタル化について研修などはされているのか

A 近隣の新しくできた町内会がLINEWORKSを使って取り組んでいると聞いて、役員の方に来てもらい班長に対して3回ほど研修会を行った。

Q 回覧はスマホでないと見られないのか、全世帯へ配布もしているのか。

A 今までの回覧も残している。管内は事業所を含めて180世帯なので、町内会だよりは公民館で印刷し、班長会で全世帯へ配布しているほか東高梨町のインスタグラムでも公開。費用は月180部だと、年間で紙代が3万円、インク代が3万円ほど。毎月1日ばかりで印刷している。

Q 世帯票の内容について教えていただきたい

A 主な内容は、世帯主と人数・生年月日で、内容は敬老祝いに使っている程度。町内会の加入率を上げることを考えると、以前奨学金の手続きで町内会への加入証明書が必要と言われ作成したことがあり、そういった行政とのひも付けが必要ではないか。災害などの際は町内会の世帯表が必要になるのではないかと考えている。

Q 防災ラジオでの町内放送は、町内会単位の小さい範囲で放送ができるのか？

A 町内会毎に流せる。また、放送内容に制限はなく時間的には300文字分を流せる。しかし喪中放送などは、個人情報や防犯上良くないのではないかと考え、私の判断で放送する内容に制限をかけている。放送する際の言い回しは、佐世保西高校放送部の方に、伝わりやすい言葉などを協力いただく予定。

Ⅲ まとめ(指導助言)

助言者	長崎県庁生涯学習課 指導主事(社会教育主事) 小島 佐予子
-----	-------------------------------

○地域住民(佐世保西高校の放送部)の視線から感じたことをラジオドキュメントの形で知ることができ非常に学びになった。

- 地域の人が集まる場(公園)を作り、その公園に芝生やベンチを作ったことで、住民の皆さんが使いやすいような気持ちを育んだり、ラジオ体操などの機会を作られたことにより、地域の人が繋がる場となった。いろいろな世代の人が参加して、交流を重ねることによってふるさとへの愛着が生まれたのではないか。
- 公園の除草やごみの片付けなどによって、安全、安心が生まれたと考えられる。さらには、住民同士の繋がりや公民館長への住民の信頼、祭りにより、地域で活動する楽しさや地域で活動する人材を育成するといった繋がりも育まれた。
- 自治意識の高まり、そこで皆さんが集まることによって、地域の課題について考える機会が生まれた。佐世保西高の放送部の活動からも、高校生をはじめ若い世代の地域づくりに関する意識も向上したといえる。
- 多くの自治公民館活動をする皆さんが直面している課題かと思われる「持続的な活動について」まずは地域の現状を知ることが大切だと考える。住民の様子や願い、課題を知ること、たとえば防災講座を組んでみるなどの活動も生まれるのではないか。
- 公民館や地域での活動について「しなければいけない」ではなく、「何ができるか」と考え、これまでの取り組みを見直し、集まる時間や回数・人数を変えるなど、目的を達成するために負担感のない仕組みづくりを行うことが必要。1人の力には限界があるため、多くの住民を巻き込み、住民が当事者として活動する。住民それぞれに出番があることが大切だと思う。子ども会・老人会との連携や地域の方が講師をする講座を開催することも良い方法では。また、本大会のような他の団体と一緒に取り組む研修会などに参加し、いろいろな情報を集め、自身の自治会で実施できるものを持ち帰ってもらえたらいい。
- 若い世代に参加してもらうためには、対象者に「ここに来たら楽しいな」、「ためになるな」という思いを持ってもらうような活動づくりというのが必要だと思う。そのためには、対象者が参加しやすい曜日や時間帯の検討が必要。さらには、小・中学生や高校生にも役割がある活動づくりができると効果的だと思う。例えば、お祭りの実行委員会に小・中学生や高校生に参加してもらうなど。大人も子どもも、それぞれができることを少しずつみんなでやっていくことで、若い世代も関わり、そして持続的な活動ができるのではないかと考える。
- 自治公民館活動の中で皆さんが、それぞれの地域でいろいろな工夫をしながら進めているということ、今回の質問や意見から強く感じた。公民館というのは、その地域の中心になるところだと思う。その中で、それぞれが無理のないように、みんなで地域を作っていく。そういった活動が、それぞれの地域で、進めていけばいいと考える。



2

全体会報告

アトラクション

皆で一緒に歌いましょう♪ ソーシャル・ピーコック・バンド



【 ソーシャル・ピーコック・バンド 】のご紹介

私たちは、令和5年9月に、川棚町の社会教育委員と元教育委員の8名で結成したバンドです。

名前の由来は社会教育の「社会」と川棚町のシンボル「くじゃく」をあわせて名付けられました。

県内の社会教育関係者等で結成された長崎県社会教育支援「草社の会」の研修会のアトラクションを皮切りに町内の自治公民館や福祉施設、公会堂などで演奏活動を行ってきました。最初の演奏会終了後に解散するつもりでしたが、町内文化祭への出演やさまざまな集いのアトラクション等へのオファーが続き、今でも不定期に集まって練習を行っています。

これまでは教育委員会からの案内で年に数回の会議でしか顔を合わせることはありませんでしたが、演奏活動を行うことにより、委員相互の関係がより深まり、社会教育委員としての資質の向上や、委員活動のPRにもつながっています。

令和6年度 被表彰者一覧

長崎県公民館連絡協議会顕彰

表彰名	氏名	市町名	所属 役職名
表彰状	松岡 清美	長崎市	長崎市東公民館 会計年度任用職員
	松尾 已知代	長崎市	長崎市東公民館 会計年度任用職員
	田村 恵子	長崎市	長崎市南公民館 会計年度任用職員
	尾崎 由美子	長崎市	長崎市南公民館 会計年度任用職員
	福島 理子	長崎市	長崎市福田地区公民館 会計年度任用職員
	篠塚 誠	大村市	大村市中央公民館 公民館主事
	坂本 理恵	松浦市	松浦市立星鹿公民館 館長
	田中 麻衣子	松浦市	松浦市立調川公民館 指導員
	新田 みずき	壱岐市	壱岐市志原地区公民館 公民館主事
	才津 成一	五島市	五島市緑丘地区公民館 館長
	峯 英樹	西海市	大串校区公民館 主事
感謝状	小川 益見	平戸市	平戸市中部公民館 ボランティアスタッフ
	渡邊 林	南島原市	南島原市公民館運営審議会 委員長
	田中 麗子	南島原市	南島原市公民館運営審議会 委員
	崎田 修子	南島原市	南島原市公民館運営審議会 委員

全国公民館連合会表彰

表彰名	氏名	市町名	所属 役職名
永年勤続職員表彰	松本 恒一	島原市	島原市立有明公民館 公民館主事
	小川 供孝	諫早市	諫早市高来西公民館 社会教育指導員
	大小田 久光	五島市	五島市奈留町公民館 主事
	本多 理恵	雲仙市	雲仙市瑞穂町公民館 会計年度任用職員

講演



講師

やの たいわ
矢野 大和 氏

鷹鳥屋神社 宮司（大分県佐伯市宇目町）

演題

「地域づくりは人づくりから」

講演の中でのキーワード

コミュニケーションは『相手との信頼関係』で成り立つ

これができるば、人生が楽しくなる

『自分の思いを上手に伝えることができる』 → ストレスがなくなる

『笑顔』 → 相手を元気にすることができる

『相手の話を聞くとときにうなずく』 → 友達が多くなる

（「そういう考え方もあるね。」と受け止めてくれるから）

日本人の良いところ

17文字（俳句・川柳）で気持ちを伝えられるほど語彙力が豊か

相手のことを思って行動することができる

日本の財産は『人』、日本人の財産は『教育』

生涯をかけて勉強する「生涯学習の考え方が日本の国を支える」

公民館は生涯学習の『基地』

一番地域に密着している『公民館』は、『学習意欲のある人を増やす場』、『地域のコミュニティの場』として生涯学習の基地となる。また、良いコミュニケーションを築くことで、地域における災害や犯罪の被害を防ぐこともできる。

まずは、

家庭での『感謝の言葉』と地域での『あいさつ』から始めましょう

3

資料

第74回 長崎県公民館大会大村・東彼大会運営組織

■大会役員

役職等		氏名	所属等
大会会長	長崎県公民館連絡協議会会長	森田 法幸	波佐見町教育委員会 教育長
大会副会長	長崎県公民館連絡協議会事務局長	加藤 盛彦	長崎県教育庁 生涯学習課 課長
大会本部長	実行委員会委員長	遠藤 雅己	大村市教育委員会 教育長
大会副本部長	実行委員会副委員長	山口 厚	東彼杵町教育委員会 教育長
		諸岩 達哉	川棚町教育委員会 教育長
		川下 隆治	大村市教育委員会 教育次長
大会事務局長	実行委員会現地事務局長	山口 尚子	大村市教育委員会 社会教育課 課長
大会委員	長崎県公民館連絡協議会理事 長崎県公民館連絡協議会事務局員 実行委員会委員		

■実行委員会

役員	氏名	所属等
委員長	遠藤 雅己	大村市教育委員会 教育長
副委員長	山口 厚	東彼杵町教育委員会 教育長
副委員長	諸岩 達哉	川棚町教育委員会 教育長
副委員長	川下 隆治	大村市教育委員会 教育次長
委員	岡田 半二郎	東彼杵町教育委員会 教育次長
委員	小中尾 寿隆	川棚町教育委員会 教育次長
委員	朝長 哲也	波佐見町教育委員会 教育次長
委員	石橋 勝典	川棚町公民館運営審議会 委員長
委員	福田 直幸	波佐見町自治公民館長会 会長
監事	滝川 初夫	東彼杵町自治公民館連絡協議会 会長
監事	富永 耕造	大村市公民館連絡協議会 会長

第74回長崎県公民館大会大村・東彼大会

参加者数

会場	参加者数
第1分科会 「青少年教育と公民館」 (大村市中央公民館 第1会議室)	37人
第2分科会 「地域づくりと公民館」 (大村市中央公民館 第3・4会議室)	72人
第3分科会 「人権教育と公民館」 (大村市中央公民館 第1会議室)	17人
第4分科会 「自治公民館活動」 (大村市中央公民館 大会議室)	104人
全体会 (シーハットおおむら さくらホール)	248人
その他 (県公連職員、事務局職員等)	30人
合計(延べ参加者数)	508人

大会のあゆみ

年 度	回	主 会 場	会 長	大 会 テ ー マ
S	25	1	長崎市 深草 義暄 (東彼)	
	26	2	佐世保市 //	
	27	3	長崎市 //	
	28	4	佐世保市 末吉 寿勝 (南高)	
	29	5	長崎市 //	
	30	6 ※	島原市 //	
	31	7	郷ノ浦町 竹内 清吾 (東彼)	
	32	8	平戸市 //	
	33	9	雲仙 //	
	34	10	西彼・長崎 //	
	35	11	諫早市 //	
	36	12 ※	佐世保市 //	
	37	13	大村市 //	
	38	14	有川町 //	
	39	15	佐々町 //	公民館は住みよい生活と明るい社会を築くためにどのように経営すればよいか。
	40	16	島原市 横山 孝雄 (吉岐)	地域住民の要求にこたえるために公民館はどのような方途を講ずればよいか。
	41	17	郷ノ浦町 //	公民館は地域住民の生活を豊かにするために自らが学習を高める経営をどうすればよいか。
	42	18	大島町 //	「公民館のあるべき姿と今日的指標」具体的実践方法
	44	19	厳原町 //	
	45	20	諫早町 //	公民館の飛躍的充実を図り、住民の生活文化の振興と社会福祉の増進
	46	21	佐世保市 //	公民館の位置と役割およびそのあり方
	47	22	福江市 //	地域に密着した公民館のあり方を求めて
	48	23	大村市 //	生きがいを考える
	49	24	松浦市 //	生活に根ざす公民館活動の前進
	50	25 ※	長崎市 //	住民の求めに応ずる公民館活動のあり方
	51	26	島原市 //	住民の連帯を高める公民館活動
	52	27	石田町 //	住民とともに歩く公民館
	53	28	野母崎町 //	住民の求めに応ずる公民館活動のあり方
	54	29	佐世保市 //	新しい時代の公民館を考える
	55	30	諫早市 //	豊かな心を育てる公民館活動
	56	31	厳原町 //	自発的学習意欲を高める公民館活動
	57	32	福江市 //	地域に根ざす公民館活動の充実を求めて
	58	33 ※	長崎市 //	学習者会を目指す公民館のあり方を考える
	59	34	大村市 松尾 耕之助 (南高)	明るく住みよいまちづくりと公民館の役割
	60	35	平戸市 //	これからの公民館を考える
	61	36	島原市 //	学び合う地域づくりと公民館活動のあり方を考える
	62	37	勝本町 //	公民館活性化を考える
	63	38	三和町 //	地域に根ざした公民館活動

大会のあゆみ

H	元	39		佐世保市	〃		今あらためて公民館を問う-生涯学習と公民館-
	2	40		諫早市	〃		集い 学びあう 公民館
	3	41	※	長崎市	〃		生涯学習社会を創造する公民館活動を求めて
	4	42		厳原町	〃		「ひとつづくり」「まちづくり」をめざす公民館活動
	5	43		福江市	〃		『住民一人ひとりが主役になる公民館活動をめざして』
	6	44		大村市	〃		『生きがいを求めあう公民館活動をめざして』
	7	45		佐々町	〃		変化の時代を『生きぬくために』
	8	46		小浜町	〃		くらし豊かに 公民館
	9	47		多良見町	〃		今、求められる公民館とは・・・。
	10	48		郷ノ浦町	〃		生きがいをはぐくむ公民館活動
	11	49	※	長崎市	〃		「住民参画による公民館活動の新たな創造」
	12	50		諫早町	阿比留 亨	(南高)	「新時代に求められる魅力ある公民館活動」
	13	51		佐世保市	森谷 和一郎	(南高)	『21世紀のふるさとづくりを目指し、新しい公民館の方策と役割を考える』
	14	52		福江市	〃		希望と夢のある21世紀づくりのために
	15	53		大村市	谷山 健治	(東彼)	『いきいき公民館をめざして～あなたが変われば地域が変わる～』
	16	54		松浦市	〃		『一人ひとりが輝き、地域が輝く公民館』～地域に愛される公民館をめざして～
	17	55		雲仙市	〃		『地域とあゆむ公民館』
	18	56		佐世保市	〃		『変化のはげしい‘いまこのとき’ 公民館はいかにあるべきか？』
	19	57	※	長崎市	〃		「社会の変化に対応する公民館活動の新たな展開」
	20	58		諫早市	〃		『時代に応える公民館活動』～地域社会の変化と自治体改革のなかでの公民館の役割～
	21	59		壱岐市	道津 利明	(新上五島)	『地域に求められている公民館活動』～安全・安心なまちづくりのための公民館が果たす役割～
	22	60		西彼杵郡 西海市	〃		法制定60年を経て 新公民館像を求めて『いま 公民館は・・・』
	23	61		対馬市	〃		「これからの公民館のあり方」をもとめて 「あいだをとりもつ公民「間」・町づくりのかなめ公民「幹」・生きがいを見出す公民「歓」
	24	62		新上五島町	〃		「がんばろう公民館・・・地域の絆づくり」～地域の力を再発見 公民館から人づくり、まちづくり～
	25	63		大村市	〃		「人と未来をつくる公民館をめざして」～がんばらんば！！人づくり、絆づくり、ふるさとづくり～
	26	64		平戸市	〃		「地域と共に歩む公民館活動」～がんばらんば 新たな地域づくりに向けて～
	27	65	※	長崎市	〃		「地域コミュニティの核となる公民館活動」～人づくり、地域づくり、絆づくりをめざして～
	28	66		島原市	〃		「未来のふるさとを創造する公民館活動」～ひとつづくり・ふるさとづくり・子どもたちに輝く未来をつなげよう！～
	29	67		壱岐市	〃		「活力ある地域づくりを目指した公民館活動」～地域の人づくり、絆づくりを通して～
	30	68		西彼杵郡 西海市	〃		「つどい・まなび・むすぶ、活力ある公民館活動」～地域の拠点として、人をつなぐ公民館を目指して～
R	元	69		佐世保市	中嶋 健蔵	(波佐見)	「つながる、続けられる地域自治をめざして」～新しい時代に公民館ができること～
	2	70		諫早市	森田 法幸	(波佐見)	「これからの時代に求められる公民館のあり方」～希望ある未来を築くために今、公民館ができること～
	3	71		対馬市	〃		「新しい時代に対応した公民館」～持続可能な地域づくりと公民館との関わりを考える～
	4	72		五島市	〃		「時代を見据えたこれからの公民館」～地域課題に取り組むこれからの公民館とは～
	5	73	※	長崎市	〃		「みんなで学ぼうで！つながろうで！」～公民館の「不易」と「流行」を考える～
	6	74		大村市	〃		「人と世代をつなぎ、持続可能な地域をつくる公(幸)民館の可能性」

第74回長崎県公民館大会 大村・東彼大会

【発行・編集】

第74回長崎県公民館大会 大村・東彼大会事務局
〒856-0836 大村市幸町25番地33
大村市教育委員会社会教育課(大村市中央公民館内)

TEL 0957-54-3161

FAX 0957-54-3162